

テクノアカデミー浜 令和6年度産業人材育成推進協議会 議事録

日 時： 令和7年2月7日（金）13:30～15:20

場 所： 福島県立テクノアカデミー浜 101教室

出席者所属：

南相馬ロボット産業協議会

福島県自動車整備振興会

福島県建設業協会

株式会社ゆめサポート南相馬

いわきコンピュータ・カレッジ

原町商工会議所

福島県立小高産業技術高等学校

南相馬市商工観光部商工労政課

相馬市産業部商工観光課

相双公共職業安定所

相双地方振興局

テクノアカデミー浜

### 【南相馬ロボット産業協議会】

施設案内、リアルスカイプロジェクト素晴らしい取り組みだと思っていた。学生も素晴らしいが、先生方のサポートがないとできない、志をもった熱い先生がいると思った。素晴らしい学校だと思っている。

我々と一緒に数年前から、新人教育をやらせてもらっている。中小企業だけではできない。しっかりと教育していただけるのはありがたい。

その発展として、官民合同チーム、テクアカ、ゆめサポートと連携して人材育成ビジョンということで3月にお披露目をさせて頂く。

短期的ビジョンと長期的なビジョンをもって進めていくべきである。引続きよろしく願いたい。

我々の紹介をさせようとして、昨年、ロボテスで行われたワールドロボットサミットのプレ大会に参加した。今年が本大会である。南相馬市から支援を受けて、大会に臨んでいる。昨年のプレ大会では、ミソラという災害対策ロボットが出場して2位になった。今年が本大会となり、参加者が世界から集まり、今年の10月に参加予定である。かなり難しい大会になると思っている。現在、模索中でありテクアカの学生も一緒になってチーム南相馬でがんばっていききたい。

業界では、ロケット、宇宙などのベンチャー企業、スタートアップ企業が来ているが、その関係者と話す人が足りない、地元で採用したいが採用できないという話が聞かれる。やはりこれらの話を聴くと、中長期的に見て、ものづくり、ロボット、宇宙分野に興味のある人材を育てていくのが大事である。

一方で、今までの仕事のやり方は、親会社から図面が出てきてそれを作る、それが一般的だったが、最新の考えを持ったベンチャー企業は、3Dモデルで、こういった構想があるので形にしてくださいというような案件が増えている。

図面がないと作れないではなく、地元企業もできるようにしていかなければならない。

テクアカには、3D、コンピュータもあるし、実習もできるので、地元企業のレベルアップも考えていかなければならない。

企業向けのオーダーメイドのセミナーを考えていかなければならない。企業の底上げをしてかねければならない。我々だけでなく南相馬、テクアカと一帯になってロボットの町南相馬を実現していきたい。

一緒になって考えていかなければならないのでよろしく願います。

### 【校長（座長）】

現在、来年度の入学者予定者は定員の約4割である。そこで、人数が少ないからこそできる企業との連携などの内容をカリキュラムに反映させていきたい。

### 【福島県自動車整備振興会】

自動車整備には、ガソリン ディーゼルがある。今までは、基本的な修理の仕方、構造の内容、教わった技術を応用して作業にあたれば、収入を得る術を身に着けられた。

しかし、時代とともに変わってきた。昔は、パーツ（部品）アンドサービスで収入を得られ、法律に乗っ取った修理をすれば、収益を得られるシステムだった。

約20年前からは、パーツアンドバイスアンドサービスに変わった。バイスとはコンピュータのことで、コンピュータで診断されたデータを解析して必要なパーツでサービスをするシステムである。新しい車検制度ができ、コンピュータで診断、車が記憶しているメモリーを解析するようになってきた。このようなことから、2年間のカリキュラムでは足りない。コンピュータのシステムを理解するカリキュラムが必要である。

また、近くにロボテスがあるので、ロボテスと連携したカリキュラムが出来れば、夢が広がってくると思う。

自動車分野の高度化によって資格も見直されている。内燃機関のガソリンとディーゼルの見直しがされ、整備士の中身も高度になってきている。特に法規制が高度になってきている。

昨年の10月から新しく車検制度OBD（オンボード・ダイアグノーシス）車載式故障診断装置が始まった。新しい車はこれに該当するので、各工場がこのOBDの検査設備を設置しなければならなくなってきている。

新しい技術が導入されるので、学生には、驚かないような素地を身に着けてほしい。一般的な業務の電子車検証を見るなどが、無意識にスムーズにできるようにして卒業させてほしい。出来るだけ、テクアカをPRしていく。このような良い学校を無くすわけにはいかない。

### 【校長（座長）】

自動車整備科も人気がなくなってきて、定員割れを起し確保が難しくなっている。しかし、人数が少ないからこそできるカリキュラムを行っていきたい。外に出て見学等させて現実に合った内容を行っていききたい。

### 【いわきコンピュータ・カレッジ】

自動車整備科は、どの程度情報処理関係を教えているか。

【事務局】タブレットを使って診断、ワード、エクセルが使えるよう授業に取り組んでいる。

### 【福島県建設業協会】

県の土木部と意見交換した時の資料の中に、就業者の4割職員が退職し辞めていくが、新入社員が入ってこない、福島県の人口減少が顕著であると書かれている。

また、ハローワークの資料では、建設産業において、求人を出しているのに人が来ない。来ない原因として、休日が少ない、日給月給で不安定などの理由があげられる。そこで、昨年から完全週休2日を目指している。県土木部でも発注者指定型ということで、週休2日で工程を組んでやっている。我社も9日間連続で休暇を取得させた。

3K（きつい、きたない、きけん）から4K（給料がもらえる、休日がある、希望が持てる、かっこよい）にしようとして運動している。

先日の会議では、担い手不足の改善が進まず、現場代理人・職長クラスの人材不足、一般職では外国人頼みになって、3/4の企業が人手不足であった。

現在、会津では、除雪作業をおこなっている。また、インフラのメンテナンスは急務になってくる。そこに人材がないということに危機感を持っている。産業教育を本気で考えるべきだと思う。

東日本大震災で一時爆発的に仕事が増えた。南相馬市だけで約2万人の作業員が来た。理由は高い給料にあり、20日間働くと約50万円もらえた。放射線手当等がなくなると月間で約30万円になった。そこで、労働単価を上げて頂こうと働いているが、他業種には追い付いていない。

本来は、ブルーカラーがホワイトカラーより上じゃないと人は来てくれないが、そうならない。建設業は経験工学なので、職場の経験を積み資格を取って給料が上がっていくということで今までやっていた。

なんの経験もないのに高い初任給を払うことはできないので、そこを構造的に変えていかなければならないと思う。

テクアカの学生が、資格を取って業界に人材供給して頂いているのは本当にありがたい話である。

現在、浜通りには、建築関係の学校は他に福島高専しかない。資格を取るためには、仙台、東京の学校に行く必要があり、浜校は重要な学校であるので頑張ってもらいたい。

インターン、職業体験等こういったものを年に1回ではなくて、3~4回でも来て現場を見て頂いて、一緒に産業としてやっていく意識をして頂けるとありがたいと思っている。

テクアカのことを、中学校・高校にPRしていただき、建設業に誘導して頂きたい。高校の指導は、進学に力を入れていて実業分野の指導が薄い。そこで、実業教育を浜校でお願いしたい。

人手不足をどう補うかと言えばDXしかないと思う。重機にてもICTで、リモートで無人のブルドーザーを使う、ドローンで三次元測量をしてそのまま図面に当てはめる、それから竣工書類にしても電子データで行う。今、バックオフィスという発想になっている。それは、現場で撮ったデータをそのまま本社に送

って、竣工書類を作成する方法で、これを制度化していこうと思っている、その分の人件費を見ていきながら公共事業を回していこうと考えている。本社の職員は、複数の現場を見ることができ効率化が図れる。そこで、コンピュータ、ITの知識が必要となってくる。企業では、Web、クラウドを活用しており、そういう時代になっている。

業界のPRの機会として、振興局が主催しているキッズニアに3年間参加している。建設関係は人気があり、毎回80名程度の親子来場者がいる。子供たちは、働く機械、Webでの重機を動かすゲームをすごく楽しんでいる。しかし、こんなに人気があるのに就職に結びつかないので悩んでいる。

このようなイベントを繰り返し行って、建設業は、必要だということを理解してもらうことが大事だと思う。

地元の相馬農業高校には、環境緑地科土木コースがあり、ここと連携が出来れば人材確保に繋がると思う。これからも、優良な人材育成をお願いする。

#### 【株式会社ゆめサポート南相馬】

南相馬市は、ドローンなどの先進的な企業が来ている。求人は東京価格で募集している。なかなかリクエストが高く、大学院卒等の条件が示されている。このような人材は、なかなかいない。

しかし、地元人材を求めているのは明らかである。そこで、在職者訓練を充実させて頂いたほうが現実的ではないかということでテクアカをお願いしたい。

必要とされる人材は、様々な体験をした人であり、リアルスカイプロジェクトのような特別な体験をした人が優遇されると思う。やったことの無い経験をした人材を欲しがっている。

そのような経験が、飛行機関係に携わらなくても、いろいろな現場で必ず役にたつ。特別な経験を自分の力に変える、能力に変えていくことが、求められていると思う。そういったことを助長してもらいたい。

#### 【校長（座長）】

在職者訓練の充実が求められる。学卒訓練がこれだけ入ってこなくなると、学卒訓練を中心にやってきた学校であるが、方向転換を考えていかなければならない。今年度中にロボ協、ゆめサポ及び官民合同チームと連携してやっていく仕組みを作る中で、今後ともよろしくお願いしたい。

#### 【いわきコンピュータ・カレッジ】

本校は、おもに、離職者訓練をやっているが、在職者訓練をやりたいと思っている。そのためには、新しいカリキュラムの作成やリモートなどいろいろな問題が考えられるが、連携できればと思っている。

本校の入校状況は、定員60名に対して約40名で厳しい状況である。その背景は、高校生の数が少ない（少子化）、就職が良好、大学は枠を広げているなど

があげられる。高校新卒の確保が困難になっており、相双はじめ浜通り全体、北茨城、49号線沿いでの新卒の学生募集、社会人の学生募集確保に努めている。現在浜通りで2年間情報処理技術だけを専門的に教える教育・訓練機関は、本校だけであるので存続はさせていきたい。その活動の為、テクアカと連携させていただきたい。

2年間専門的に学んで資格を取り、仕事に対しての武器を持った人材を育成することがコンカレとしての創立以来の責任である。

就職先としては、IT関連企業、製造・開発企業、事務・サービス系企業で9割になる。県内・いわき市内には、70～80%就職の実績がある。

コンカレの教育訓練を補強する為、3年前から会津大学と連携しリモート講義を受けている。会津大学では、IT専門家、ITリテラシー人材を育成している。コンカレではIT実務家の人材育成を行っており、会津大学と連携を行い、福島県内でIT人材を育成し、仕事に就く地産地消が出来る姿を目指せればと考えている。今後もテクアカと連携させていただきたいと考えている。よろしく願います。

【校長（座長）】

今後、ロボエネ科等と連携が取れればと考えている。協力をお願いする。

【原町商工会議所】

人手不足が大変深刻な問題になっている。いろいろな会議に出席しても同じ悩みが出てくる。原因は少子高齢化である。少し前にコロナがあって、この地域においては東日本大震災があって、大きな原因になっている。

それと、いまから20年前から言われている2025年問題だと思われる。超高齢化になると言われていた。その中で社会保険料、医療介護の問題があるが、産業界においても人手不足、労働力不足は大きな問題である。現実として表れていることを再認識した。

そこで、いろいろな会議で言われているのは、高齢者を再雇用する、女性の就労機会を増やす、外国人を雇用する、リモートワークをする、時間短縮の勤務体制、ITを活用した業務の効率化などはどこでも出てくる対策なので、これは一つの正解なのかなと思う。

私たちに所属する企業自体が、従業員を雇用していて、従業員がやっている作業自体を効率化していく必要がある、例えば、従業員が半分になってしまったら、その人たちだけで売り上げを確保しなければならないので、そのところをどうするかということになる。

昨年度も申し上げたが、日本商工会議所の資料にもあるが、公的な機関の職業能力開発が非常に大事だと言われている。

テクアカでもいろいろと在職者のためにカリキュラムを立てていると思うの

で、会員企業に周知することは可能である。協力体制はできると思う。

商工会議所の職員募集について、震災前は1人に対して、20～30人の応募があったが、現在は、ほとんど応募がない状態である。告知の方法を変えるなどいろいろ考えて、乗り越えていきたい。

【校長（座長）】

在職者訓練の連携をよろしく願います。本校職員の採用募集も集まらず、欠員になっている。新卒の応募が皆無で、中途の応募がほとんどである。

【小高産業技術高等学校】

本校から数名合格者を出してもらっている。これらも含めて連携させてもらっている。

また、今年度より、本校では3年間、県の事業として脱酸素社会の実現に向けた産業人材育成事業に取り組んでいる。この事業は、生徒たちが脱酸素社会のリーダーとして寄与するための知識技術を習得し、地域産業界と連携を深めながら実践的な学びを展開することを目的としている。

本校は、工業系3学科、商業系1学科計4学科で構成させている。機械科においては、スターリングエンジンの研究等、電気科はEVカーレースの取り組み、産業革新科の環境化学コースではバイオエタノール製造、バイオ水素発電などの再エネの取組を行っている。

また、商業科は国際グローバル化ということで、台湾の同じような商業系学校と交流授業を進めて、次年度以降継続していく。

脱酸素社会の実現や、カーボンニュートラルなどでより踏み込んだ連携をテクアカにお願いしたい。

学校間の連携は、地域全体の地域創生や地域復興に寄与できるものと考えているので今後も連携をお願いしたい。

【校長（座長）】

EVカーレースには、ロボエネ科も参加させてもらっているので、続けて頂きたい。

【南相馬市】

人材不足を痛感している。テクアカは地域の産業人材を輩出しており存在として大きい。市内の企業を訪問して地元の人材育成の話の中で、テクアカと小高産業の話が出ている。

南相馬市でも、建設業関係発注案件の中に、週休二日制などの働きやすさを考えている。

市としては、ロボット、宇宙産業などの新しい産業もあるが、地道に地元を支えてきた産業とどのように寄り添うかということも大事である。多様化、中途採用の支援など、市でもいろいろな取組を行っている。

また、効率化が大切だと痛感しており、全部自動で作業を行うのは難しいが一部自動化など、組織体を立ち上げ令和7年度から具体化し吟味する。

テクアカが、学生の応募状況がきびしくなっているのは前から伺っているが、市は、18歳で高校を卒業した生徒に応援金を始めた。ただ、支給するだけでなく、南相馬市に戻ってくるきっかけなどになるようにしたいと考えている。これからも、テクアカと人材育成の連携をとっていきたい。

#### 【相馬市】

毎年、こども科学フェスティバルに参加していただき感謝する。今年も行うのでよろしく願います。

担い手不足の話であるが、相馬市の18歳の人口は約300人、令和6年度に生まれた子供は160人、単純に言うと18年間で半分になる。

一番の問題は、人口減少だと思う。例えば、人口が3万人から2万人に減っていき3割減るということは、店も3割減るということになる。だから人口を減らさないようにする、維持するということを考える。これらの課題は、相馬市、浜通り、福島県全体のこどもの人口減少である。学校も半分になってしまう。なかなか答えが出ないけれども頑張っけて対策をしていきたい。

#### 【相双公共職業安定所】

相双職安は、相双地区に3つある。令和6年度11月の有効求人倍率は、相双地区で1.6倍、ハローワーク相馬で1倍、富岡3倍で地域性がある。

業種別の有効求人倍率は、技術系だと1.9倍くらいあり、保安系だとかなりの倍率があり5.6倍である。事務系1倍、製造1倍を切る状況であり、ミスマッチが起きており、全国的にみても変わらない状況である。

有効求人倍率は、相双1.61倍、全国1.25倍、福島県1.25倍で相双は県内でも高い有効求人倍率である。しかし、求人は少しずつ減っている。復興復旧事業の縮小によるものである。求職者も減っている。

有効求職者は、年代別でいうと50～60才以上の方が増えている。中には、70代80代の求職者の方もいる。

しかし、企業側も受け入れが厳しい状況である。保安特に誘導員、常駐警備に職を求める人が多い。

高卒は、例年2割程度就職する。地元に残るのは7割程度である。就職率は99%決まっている。企業は求人を出しても人をとれない状況である。

ハローワークも情報発信をしている。LINE等を使用して発信している。職業訓練の案内もどんどんさせて頂く。地域の労働需給調整機関として事業を実施していくのでよろしく願います。

#### 【振興局】

振興局の人材育成の取組みとして、昨年11月にキッザニアを実施した。皆様



にいろいろな形でご協力を頂き実施した。2日間で約2,200人の来場者があった。

小中学生対象のイベントだったので、すぐに就職に結びつくものではなく、成果が見えづらいが長い目で見ると成果があると思う。また、地元を離れてUターンする時にでも、ちょっと思い出してもらえればよいのではと実施している。

来年度も実施予定であるのでご協力をお願いします。